

## 2. 夏の状況と組合の取組み

6月には感染者数が落ち着き始め、ほとんどの旅館・ホテルで営業を再開したものの、さくらんぼ狩りのシーズンにもかかわらず、県外のお客様がほとんど来なかった。このような状況のため、県が「県民泊まって応援キャンペーン」を実施することに合わせて説明会を開催した。

7月になるとGoToトラベルがスタートした。感染者の増大や東京が除外されたことでキャンセルが増えはしたが、8月は例年観光のトップシーズンであり、今年は予約が少ない中でのキャンペーンは業界にとってありがたいことである。しかし、GoToトラベルがスタートしてから感染者が急増し、人の移動による感染拡大が懸念され、旅行者は増えない状況だった。

## 3. 現在の状況

秋の行楽シーズンを迎えGoToトラベルの割引と県のキャンペーンによる割引が併用され、予約が急増した。

10月には東京もGoToトラベルの対象となったことに加えて、地域共通クーポンの取り扱いが始まった。その影響で、割引率が最高となる2名の旅行を中心とした予約が殺到し、前年を上回るようになった。

## 4. 今後の課題

高齢化した経営者がネット社会に対応できず、支援策に応募できない状況である。

また、団体のお客様がほとんどいなくなり、個人旅行中心に営業している現状である。そのため、団体をこれまでのように戻すことが出来るのかと検討する必要がある。

観光産業は世界的に見て成長性の高い産業で、観光立国・観光立県とも言われるように波及効果の裾野が広い産業である。そのため、コロナ禍により観光客の往来が止まったことで、旅館・ホテル業のみならず多くの業種に影響が出ている。感染拡大防止と観光・集会活動の両立が重要であり、そのためにも旅行者と受け入れ側の旅館ホテル業の双方が感染拡大防止に努める必要がある。

また、地域の方々とも協力し、地域全体に波及効果が広がるように組合でも頑張っていきたいと考えている。



牧野 聡 理事長

## 企業組合かほくイタリア野菜研究会 発表者: 牧野 聡 理事長

### 組織概要

所 在	西村山郡河北町 谷地字月山堂654-1
代 表 者	理事長 牧野 聡
組合員数	16名

## 《発表内容》

### 1. 組合の概要

平成23年に町内の農家がイタリア野菜の栽培を開始した。平成24年には「イタリア野菜研究会」として組織化し、平成25年に企業組合を設立した。

イタリア野菜栽培のきっかけとして、町内のイタリアンレストランのシェフが「国産のイタリア野菜を使いたいが、品数が少ない」ということを感じており、全国的なイタリア野菜のニーズがあった。そこで、気候がイタリアと似ていた河北町で意欲ある賛同者を集い、有志で栽培を始めた。